

山桜の里 戸赤

おかせいな祭

青少年健全育成
せんこう花火大会は
た。お盆のお客様

事業と戸赤区の共催で行っている恒例となったせ
ことしキャンプファイヤーも取り入れ行われまし
にも楽しんでいただこうと企画しているもので

ふだんはひつ
そりしている
集落に子ども
の歓声が広
りました。

殻が褐色になり収穫
が始まった花豆。長雨に
なるともぎ取る前に実か
ら芽がでてしまつてクズ
になってしまふ。天候を気にしながら
の毎日。しっかりと乾燥できるように願つて
良品質で多収量の秋を迎えたい。

花豆
栽培



8月14日、30人近く集まったせんこう花火とキャンプファイヤーのお楽しみ会



収穫期に入っている花豆畑(8. 21)



熊よけの電気柵、被
害が及ばないうち設
置を心がけるが間に
合わない場合もある

生気盛んな
夏の香り



熟成させた屋根の古カヤを混入させて播種7. 26



完成予想図
工事中の小沼崎地内国道から
田代方面への橋(福島建設工業
新聞8.6)

「○○さんのとこ
ろが薄いかか…」
種を蒔いた足跡を
秋に確認するのも
楽しみ(右)



8月15日
開花始め

【木地の学習No.46】近世後期になると文献上でも、かなりの木地師たちが会津に移動してくることが分かる。おそらく会津木地師の好景気と前住地の木地材の涸渇に伴ってのことだろうと考えられる。前住地は、古くから木地師が入り込んでいた信州(主として下伊那)と、そこに隣接する三河、美濃、飛騨、甲州等であった。御蔵入役所から出された触継文書には、…とあって、田島、高野、川島の各組の触継名主へ出されたもので、木地小屋、中負(仲付)の者達へ申し聞かせるようにというものであった。会津藩ではこの頃から文化にかけて他邦より木地師移住政策をとり、それによって特典を与えたとする話が巷間に伝わっている。おそらく状況判断からするとその通りだろうと思われるが、会津側、前住地側ともに、それを示唆する文書は見つかっていない。当時どれだけの木地を生産していたのだろうか。田島町内に関しては、直接の資料は見当たらないが、会津領内木地生産について、二点の文書を掲げてみよう。栃木県塩谷郡藤原町上三依の木地屋元締文書「福徳御山神」には、木地師銀右勘定が記されている。文化十一年の上半期(二月三日から九月八日)のものである。それによると、仕送りが食料品、日用品、生産用具、嗜好品その他合わせて、五両一分一八貫三三五文。換方は①相中紀州型三一挽 ②平加々太輪三〇挽 ③こわけん三組 合計六一挽と三組、一両三分四三七文 木地挽代から仕送りを差し引いた三両三分三六二文が文化十一年上半期の利益となっている。「(会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) (つづく)」

7. 24まゆみ幼稚園35人(ふくしまっ子)



ソバ打ち体験



やまざくら
学校でも
そば打ち体験

海の子のアドベンチャー事業
学校に泊まった八月九
日の朝自由時間に、天候
を気にしながら

海の子横浜
の希望者だけ川
遊びをした「海の子山の子
アドベンチャー」事業は、山
の子(下郷)と合流してか
ら、ソバ打ち、バターつく
り体験をしました。ソバは
戸赤の星・渡部さんに、バ
ターつくりは金子さんに
教わり、平野さんの手作り
パンでいただきました。

やまざくら
学校
大人気



関東関西から気の合う仲間、楽器と好きな食材持ち込みリフレッシュ

7/20
雨が降りしきり午後3時。夏の楽しい思い出として
刻みれました。

7/20
念願の流しそうめんができて大感動...! 5年ぶり晴れては時間が多くて
行動範囲もんで満喫できました...!! 水の冷たさはやはり...!
梅酒、楽しみです。

「やまざくら感想ノート」から



震災後初 横浜の児童来町

笑顔で再会約束

下郷町と横浜市の子、日朝にわたり、町内で
どなたか交換する、聞かれた、黒日本館
「海の子山の子アドベンチャー」事業は、山
の子(下郷)と合流してか
ら、ソバ打ち、バターつく
り体験をしました。ソバは
戸赤の星・渡部さんに、バ
ターつくりは金子さんに
教わり、平野さんの手作り
パンでいただきました。

音楽で至福な時空

戸赤出身者の音楽好きな友人の輪が広がり、ことしは2泊3日の日程で30人以上の顔ぶれとなり、念願のやまざくら学校で自由な時間を楽しんでいきました。



思存分音楽三昧、これこそ至福の時

(ストーリー性のある村づくいのために[No.15]・下郷町史 私たちは将来を考える時、何かを計画する時、過ぎ去った日々を振り返ります。良いことは明日への飛躍に、苦しいことは未来への糧となります。下郷町史第7巻通史編に登場する人々もまた、先人の生き様を顧みて困難を克服してきました。こうした地道な日々の積み重ねが下郷の礎を築いてきました。下郷町史第7巻通史編が多くの人に読まれ、新たな地域史解明の一助となり、さらには未来への指針となれば幸いです。最後になりましたが、執筆・編集に当たられました専門委員・執筆者各位ならびにご協力下さいました協力者各位・関係諸機関各位に衷心から敬意と感謝を申し上げ、発刊のごあいさつといたします。…下郷町の原始時代 町内の遺跡については前述のように江戸期からその存在が注目されており、明治・大正・昭和と出土の記録は残されているものの。本格的な発掘調査がされたのは昭和三十年代に入ってからのことであった。これらの発掘調査で得られた情報と過去の記録や出版物などを合わせても、縄文時全般を網羅するものではなく、ここでは周辺の南会津郡の各町村での成果を踏まえて下郷町史の縄文・弥生各時代の様相について記してみたい。